



新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

## 羽ばたけ！ 演劇部 中部大会に挑む！

12月24日中部大会、それは作品「答辞」で挑む演劇部4度目の舞台。演劇部の部長2年生の柳優恵さんに中部大会に寄せる思いをインタビューしました。

### 中部大会出場をどのようにとらえていますか

出場が決まった時は本当に信じられないという思いが強かったです。「もう一度、この作品を上演できる、多くの人に観てもらえるんだ」という喜びがあとになってじわじわと湧いてきました。この台本は最初に私が見つke、演劇部のみんなで「これにしよう！」と決めた台本ですので、思い入れも強い作品です。最初にこの作品を読んだとき、最後の場面で答辞が書かれた奉書を主人公が破るのですが、その場面が印象的だったということと、伏線が多くちりばめられていて作品に深みがあったこと、重い内容だけど未来に向かうエンディングにひかれました。



### 同じ作品を何回も演じるのはどういう気持ちですか

「慣れてしまう」ということが一番心配するところです。何回上演しても、作品に対する「新鮮さ」を維持することが大事だと思います。初心に帰るためにも台本を読み、もう一度役と向き合い、気持ちを思い出します。そうすると「もう一人の自分」が自分の中に立ち上がり、その自分を客観的に眺めようとする自分もいることを感じます。「演じることはおもしろい」と感ずる瞬間でもあります。指導をしてくださる田中先生、原先生も私たちと一緒に考えてくださいます。そして私たちから答えを引き出してくれます。演じる上では考えることがいっぱいあります。

### 学校の中においてどんな部活として成長していきたいですか

一言で言えば「みんなから信頼される部」になりたいです。人数の関係で、学校行事の照明や音響などを担うことは大変なときもありますが、「私たちにしかできないこと」と言う自負もあるし、そのことで存在感も持ちたいと思い、頑張っています。



### 中部大会への意気込みを教えてください。

とにかく舞台を、演ずることを楽しみたいと思っています。残念ながら無観客での上演ですが、演じ終わったときに「どうだ！」と言える舞台にします。

柳さんは夏の地区大会、県大会では演出を務め、秋の文化祭からこの中部大会では主人公を演じます。演出として、作品全体や個々の登場人物のせりふ・思いなど、作品の世界を自分自身の中に豊かにイメージして取り組んできたことが、せりふとせりふを繋ぐ行間での表現を豊かにし、語らずして伝える力を作品全体に与えているように思います。力を合わせて、納得のいく舞台を上演してください。頑張れ！演劇部！—山口喜久枝

## 国際協力部—私たちも来年全国大会へ行きます！

12月11日(土)高文連愛知県ボランティア専門部の県大会に国際協力部が出場し、見事、最優秀賞を獲得し、次年度8月に実施される全国大会への進出の切符を手に入れました。修学旅行の直前であったため、1年生の部員で挑んだ大会でした。「最優秀・全国大会出場」に本人たちもただただびっくり！喜びはじわじわと後からやってきました。「他の高校の発表は、動画を使ったり、会場と意見の交換をしたり、演奏をしたりとずいぶんと活発に趣向を凝らして行われていたので、自分たちの発表に皆さんが注目してくれたのはすごく、うれしい。発表の仕方だけではなく、やはり内容が大事なんだと思いました。」と1年生の藤野さん、折谷さん、高橋さんは感想を述べます。



「国際協力部にはどうして入ったの？」と問うと「部の名前が興味深かった。何を部活なのかと興味を持った。」と折谷さん。「中学校の時にSDGsのことについて少し学び、興味を持っていた。」と高橋さん。「今は児童労働のことについて興味を持っている。実情を学びながら、自分たちにできることは何かを考えたい。」と藤野さん。

当日は、これまで国際協力部が取り組んできたフェアトレードに関わる活動を中心に発表をしました。そこには児童労働の問題も含まれているのですが、世界の現状を学ぶだけではなく、大府市にあるケーキ屋さんの協力を得て行った「スマイルガーランドクッキー」と名付けた商品の開発のことも語りました。この実践を通して彼らが学んだことはたくさんありました。まずはフェアトレードチョコの価格の高さ、当然、商品価格も高く、別の方法をとっても生産者に渡す金額のあまりの少なさに、「善意」だけでは現実には解決しないことにも気づきます。今後は「知多半島もフェアトレードタウンに♪」と目標を掲げ、彼らは以下の6つのことに取り組んでいく予定です。

1. 仲間と一緒にフェアトレードを広げる団体を立ちあげよう。
2. フェアトレードを町の人々に知ってもらおう。
3. 学校や職場でフェアトレード商品を取り入れよう。
4. 地域の皆さんと一緒に町を盛り上げよう。
5. フェアトレード商品が買えるお店を増やそう。
6. 自治体にフェアトレードを応援してもらおう。



「今後も『知ること・発信すること・行動すること』を柱に私たちは活動をしていきます。先輩方が築いてきた活動を更に発展させていけるよう、私たち高校生も身近にできる国際協力を心がけていきます。私たちのモットーは『世界に笑顔を届けよう』、これからも頑張ります。」と発表を締めくくりました。

来年8月までまだまだ多くの時間があります。新たに入部してくる新入生とともに、さらに活動を充実させながら、発表のブラッシュアップを図ってほしいと期待しています。

**今月の言葉 -2 学期終業式式辞で紹介したミケランジェロの言葉です。**

**I saw the angel in the marble and carved until I set him free.**

この言葉を知った時、あの偉大な才能を持ったミケランジェロでさえ、このように神聖な気持ちで作品と向き合っていたことを知り、背筋が伸びる思いがしました。逆にミケランジェロの姿勢がこうであったからこそ、後世に残る偉大な作品を残せたとも言えます。「人を育てる」ことにもこれは通じます。心に留めたい言葉です。